

聖書日課 『からし種』 2023.7.16-7.23

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>7月16日 (日) I 歴代 19章</p> | <p>「我らの民のため、我らの神の町々のため、雄々しく戦おう。主が良いと思われることを行ってくださいるように」(13節)。ダビデの好意が踏みにじられる形でアンモンとアラムの連合軍と戦わざるを得なくなった時、ヨアブは「主の御旨」がなることを祈って戦場に赴いた。私たちが「主が良いと思われることがなるよう」祈りつつ、礼拝をもって新しい週を始めていこう。</p> |
| <p>17日 (月) I 歴代 20章</p> | <p>「ダビデはその王の冠を王の頭から奪い取った。それは1キカルで作られ、宝石で飾られていた。これはダビデの頭を飾ることになった」(2節)。1キカルは約 34 kg。この世の王は「金の冠」をもって自らの権威を人々に示そうとする。それに対し主イエスは「茨の冠」をもって人々の罪を受け尽くされた。私たちが真に生かす方は十字架の主以外におられない。</p> |
| <p>18日 (火) I 歴代 21章</p> | <p>「サタンがイスラエルに対して立ち、イスラエルの人口を数えるようにダビデを誘った」(1節)。人間の計画が順調に運んでいる時にこそ、サタンは私たちの心を巧みに誘う。ダビデが「さらなる安定を！」を求めたとき、彼は神により頼むことを忘れて、国民からの税収を確立させる道に走ってしまった。私たちは今日サタンの誘惑に備えることができているだろうか。</p> |
| <p>19日 (水) I 歴代 22章</p> | <p>「そこでダビデは言った。『神なる主の神殿はここにこそあるべきだ』」(1節)。ダビデが自らの罪を主の前に告白し、国民のための執り成しの祈りをささげた場所にエルサレム神殿が建てられていった。自らの「勝利」を記念する場所ではなく、自らの「罪」を想起する場所こそ、主を礼拝する場所にふさわしい。今日、主を礼拝する信仰が整えられるように。</p> |

聖書日課 『からし種』 2023.7.16—7.23

| | |
|--|---|
| <p>20日 (木)</p> <p>I 歴代 23章</p> | <p>「彼ら(レビ人)はアロンの子らの傍らで主の神殿の奉仕に就き、庭のこと、祭司室のこと、すべての聖なる物を清めることの責任を負うこととなった」(28節)。ダビデは神殿建築の前に、神殿で奉仕する者たちの働きを整えた。毎朝毎夕、主に感謝し、賛美し、礼拝することが人びとの暮らしの真ん中に確立することが、神殿建築の前に必要とされたのである。</p> |
| <p>21日 (金)</p> <p>I 歴代 24章</p> | <p>「彼らはその奉仕に任命され、イスラエルの神、主がお命じになったように、先祖アロンによって伝えられた法に従って主の神殿に入った」(19節)。祭司は24の組に分けられ毎朝毎夕の神殿の務めを担った。一年に二週間の奉仕のために残りの約11ヵ月半の過ごし方が大切にされたことだろう。私たちにとって主日以外の六日間の過ごし方が大切であるように。</p> |
| <p>22日 (土)</p> <p>I 歴代 25章</p> | <p>「主に向かって歌をうたうための訓練を受け、皆が熟練した者であったその兄弟たちも含め、彼ら(詠唱者)の数は二百八十八人であった」(7節)。詠唱者も24の組に分けられて日々の訓練を積んだ。ダビデの時代の礼拝でも人びとの賛美をリードする詠唱者の役割は大切だったのだ。大井教会の礼拝を整える音楽奉仕者の日々の研鑽に感謝して祈りたい。</p> |
| <p>23日 (日)</p> <p>I 歴代 26章</p> | <p>「シェロミトとその兄弟たちが、ダビデ王と家系の長たち、千人隊と百人隊の長、將軍たちが聖別した聖なる物の保管の全責任を負った」(26節)。これらの宝物は神殿の修理のため聖別された。彼らはダビデ王の宝の管理を任された。彼らに求められたのは忠実である事である。私たちも恵みの良き管理人としてキリストに忠実である事が求められている。</p> |